

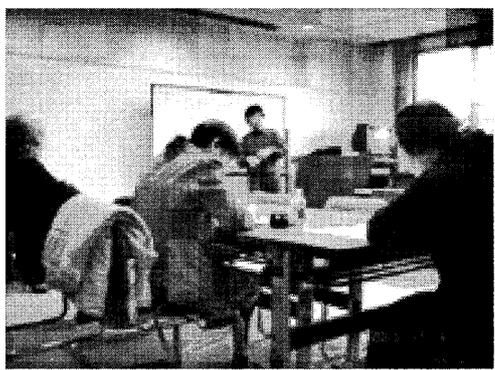
15	日本子どもの虐待防止 民間ネットワーク CAPNA	しつけと虐待を考えるワークショップ
----	------------------------------	-------------------

参加者：大人10名

内容：子どもの権利と虐待について、子どもの虐待が子どもへの暴力の問題であり、子どもの人権を侵害する問題であることについて、歴史的な視点と現状からレポートしました。その後、子どもへの虐待がおきると、「しつけとして殴った、私の子のためだ、何が悪いのだ」と主張する大人の存在があることや、「どこまでがしつけで、どこからが虐待となるのか」と、迷う声もあることもふまえて、こういったことが、しつけと虐待を連続したものとする大人の側の見方の現れなのではないかと考えてみました。レポートの後、子どもの権利と大人の行おうとしているしつけや、起きている子どもへの虐待について、具体的なケースを元に作られた事例からフロア参加によるロールプレイを行い、フロアと共に考えていきました。

3. プログラム

- ① 子どもの権利と子どもの虐待
 - * 子どもの虐待を歴史的に考える。
 - * 子ども虐待の今はどうか
 - * 「しつけと虐待」はどう捉えたらいいのか。
- ② ケースから考える
 - * ある虐待を受けた男の子のケースについて
 - * 虐待が起きていた頃のエピソードから考える。
- ③ エピソードをみんなで考えてみたい。
 - * エピソードシートを使ってやってみよう。



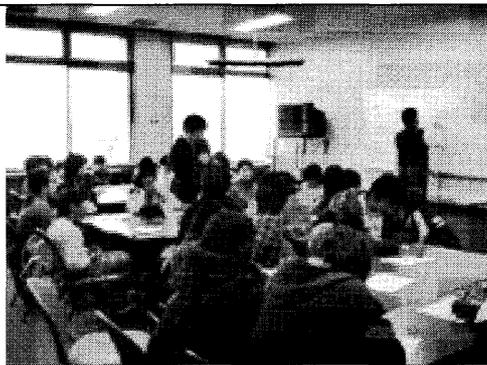
16	在日外国人の教育を考え る会・滋賀	多文化共生を 考える
----	----------------------	---------------

参加者：大人16人

内容：多文化共生を考える
 ー日本に住む外国にルーツをもつ子どもたちの人権は今ー
 在日外国人の子どもたちの人権についてパネラー
 の話題提供を受け話し合いをしました。

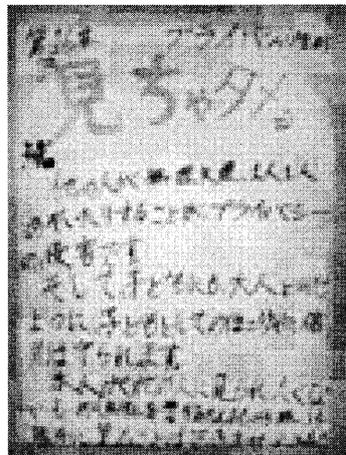
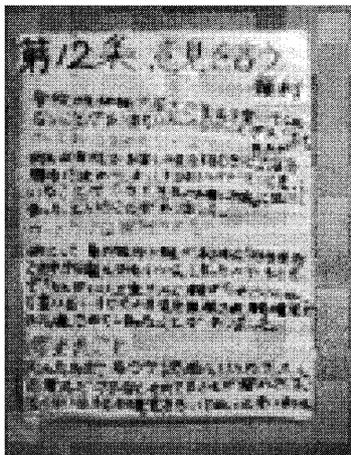


17	子どもの権利条例の制定を考える (実行委員会企画)	条例制定状況、制定後の状況悩みなどを 議論する場
参加者：午前：大人14人 こども0人 午後：大人20人 こども0人		
<p>内容：シンポジウム</p> <p>コーディネーター：鎌田ゆり</p> <p>シンポジスト：喜多明人早大教授 荒牧重人山梨学院大学教授 高木章成法政大学大学院生</p> <p>i テーマを、「子どもの権利保障のために、子ども条例の制定は不可欠か」として、午前・午後を通して、シンポジストからの基調報告を聞いた上で議論を深めた。</p> <p>ii 午前の部では、条例制定直後の自治体(目黒区)と制定検討中の自治体(小金井市)に関して、それぞれ喜多先生と高木さんから、子ども条例制定への「熱意や構想」、これを実現する「手順や工夫」、及び「反対勢力の存在」等について報告を頂き、議論した。</p> <p>iii 午後の部では、条例制定後一定の成果を上げている自治体(川西市・川崎市・多治見市)に関して、荒牧先生から、「条例化」が果たす役割、及び条例を「実施」することの大切さについて報告を頂き、議論した。</p> <p>iv 午前・午後を通しての議論で確認されたことは、子どもの権利保障に果たす子ども条例の役割の大切さや、子ども条例の精神を維持するための不断の努力の大切さでした。そして、何事にも成果を求められるようになってきた行政施策において、子ども条例制定の成果は、子どもたちから、「この町が好きだ」という評価をもらえることに顕れるのではないかということであった。</p>		
		

18	子どもワーク会議	紙芝居でつづる子どもの？あれこれ
参加者：午前／大人8名 子ども28名 午後／大人8名 子ども19名		
<p>内容：①ワーク会議のメンバー自己紹介</p> <p>②テーマ別の紙芝居の披露</p> <p>「子ども権利から考える義務教育について」</p> <p>③グループ討議「義務教育のあり方」</p> <p>「子どもの権利に守られた校則とは</p> <p>① 発表</p> <p>② 啓発ポスターづくり</p> <p>③ 子どもたちによる校則づくり</p> <p>幅広い世代、地域からの参加者があり、子どもの権利から見た義務教育のありかたや校則のありかたが話し合われた。「子どもの権利を守るためには校則は不必要なのではないか」や「校則を自分たちで話し合い、作ればよい」などの意見が出され、自分たちの校則を作ってみることになった。先生を選ぶ権利や先生に注意する権利、学校で遊ぶ権利など様々な意見が出された。この分科会のように大人とこどもが同じテーブルに立つ機会が増えることが、子どもの権利を普及する1つの手立てと考える。</p>		

19	エクパット・ジャパン	子どもの安全を子ども自身が守るために
参加者:大人8名		
内容:「子どもの安全を子ども自身が守るために」というタイトルで、当会が作成したSAFEプログラムを活用し、子ども巻き込まれうる危険な状況に対し、どのように対応できるか、おとなはどう対応すべきか、おとなと子どもの関係の取り方、地域社会はなにを話し合った。		

20	大津市地域子育て支援センター 「風の子保育園」	子どもが語る 子どもの権利
参加者:午前/大人13名 午後/大人14人		
内容:<国連でプレゼンテーションした子ども困んで>		
AM ・参加者の自己紹介		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 国連に参加した2人報告 (山下淳一郎さん・川村麻衣子さん) 当日配布のレジメ添って 		
PM ・意見交換		
<ul style="list-style-type: none"> ・参加者一人ひとりから、午前中の話を聞いて、質問や感想を出し合う。 ・ジュネーブ(国連)に行った後、何が変わったのか。 話せる場をいっぱいもらったが、最初からしゃべれた理由ではない。 ・ゆっくりと、自分たちにつき合ってくれる大人がいた。 ・発言する場のない子どもの声は…。家庭などで聞いているのか。 ・考えはあるけどすぐに子どもは話せるものではない。 子どもの声に耳を傾ける大人が… 子どもはしんどい思いをしている。でも大人も一緒。 ・結果を急ぎすぎる大人…子どもは、意見を表明するのに時間がかかる。 ・子どもの権利条約の力 ・今、子どもの権利条約のとらえ方の違いが問題になっているのではないか。 		



21	ケアリングクラウン トンちゃん一座	愛と笑いが心の癒しとなるための活動
参加者：午前／大人10名 子ども30名 午後／大人20名 子ども30名		
内容： 午前ケアリングクラウンの説明 人のよいコミュニケーションのとり方 午後エネルギーをもらって自分自身に起こる変化の実演。 バルーンを作って工夫する楽しさを伝える(サンタさん)		



22	ハートランドはちまん議会ジュニア	子どもたちが考える子どもの権利 活動紹介
参加者：午前／大人15名 子ども40名 午後／大人15名 子ども40名		
内容：①ワーク会議のメンバー自己紹介 ②テーマ別の紙芝居の披露「子ども権利から考える義務教育について」 ③グループ討議「義務教育のあり方」 「子どもの権利に守られた校則とは」 ① 発表 ② 啓発ポスターづくり ③ 子どもたちによる校則づくり		
		
<p>幅広い世代、地域からの参加者があり、子どもの権利から見た義務教育のありかたや校則のありかたが話し合われた。「子どもの権利を守るためには校則は不必要なのではないか」や「校則を自分たちで話し合い、作ればよい」などの意見が出され、自分たちの校則を作ってみることになった。先生を選ぶ権利や先生に注意する権利、学校で遊ぶ権利など様々な意見が出された。この分科会のように大人と子どもが同じテーブルに立つ機会が増えることが、子どもの権利を普及する1つの手立てと考える。</p>		

『学校』

第一場

生徒O 起立、気をつけ、礼！

全員 おはようございます

先生 はいっーおはようございます

出席をとります

Iさん

全体会『人権フォー』シナリオ

生徒I はい

先生 Mさん

子ども実行委員会

生徒M はい

先生 Hさん

生徒H はい

先生 Tさん

生徒T はい

先生 O君

生徒O はい

先生 S君

生徒S はい

先生 Y君

生徒Y はい、元気です！

先生 はい、全員いますね

連絡事項ですが、今日は授業参観があるので、

自分の机の周りのゴミを拾っておいてください

生徒I 先生も自分の机の上汚いし、片付けしいや！

生徒H そうや、そうや！

先生 先生は忙しいから、まず自分のことをしっかりしろ！

NA 授業参観日(原稿が切れていて読めなかつたです)

先生は自分のことがちゃんと出来ていないのに、

私達に「掃除をしない」とか言うのは、

ちよつとおかしいんじゃないかな、と思つ。

やっぱり、掃除も教育の1つに入ると思うから、

私たちにだけ「やれ」って言うのではなくて

先生も一緒にやってほしい。

そうしたら、先生を見て子ども達もちゃんとやると思う

第2場

授業が始まり1時間目の算数の時間の出来事

NA

先生 それでは、算数の授業を始めます

生徒O 起立、気を付け、礼

全員 (礼をする)

先生 この前の復習をします

(問題を黒板に書く)

それでは、Hさんこの問題を黒板に書きに来てください

生徒H (前にでる)

分かりません

先生 分からないんですか？困りますね

もういいです

では、Tさん前に出てきてやって下さい

生徒T はい、先生

(前に出て、解く)

先生 Tさん、正解です！

よくできました！

Hさん、これくらいはみんなやっていますよ！

NA

先生が勉強をできるかできないかで

生徒を差別するのは、おかしいと思う。

自分は自分なりにがんばっているのだから、

勉強ができなくて

「これくらいできないと、ついていけないよ」とか

言わないで欲しい。

些細なことでも、私はすぐ傷ついてしまう。

教えて欲しくて言い出せないときもあるから、

もう少し、みんなの様子を見て授業をしてほしい。

第3場

NA

ある日の昼休みのこと

生徒O

なあ、なあ、明日遊びに行かないか

生徒S

いいねえ

生徒O

SとI行きたい？

生徒I

なあ！映画見に行かへん？

生徒O

いいな

(MとH・Iが入ってくる)

M・H・I

えっ！私も行きたい、行きたい！

生徒S

ええで！

生徒Y

うん！OK牧場！

(教室の空気が一気に暗くなる)

生徒S

えええ、山きんおもしろいし…

生徒O

お前、キモイわ

生徒T

いっぺん、死んで来いって

(笑いながら冗談で言う)

生徒Y

笑う

NA

巨額、何気なく皆さんが使っている言葉でも、傷つく人がいます

気にしていないフリをしても、心の中で

泣いている人はたくさんいるはず

一度、自分が使っている言葉を見直してください

「放課後」

NA

ある日の下校時間、みんな一緒に帰っていきます

全員

さようなら

生徒M

今日、遊ぼう

生徒M以外 OK

全員 じゃーねー

(家庭)

井上君 たいまい

母 お帰り

井上君 今日、塾休んでいい？

母 だめ！塾に行きなさい！

井上君 でも、もう塾休んで遊ぶって言っちゃったもん！

母 勉強しなさい！

井上君 じゃ、明日は休んでもいい？

母 ダメ！

井上君 チェッ(舌打ち)

NA 井上君は、結局塾に行き、友達とは遊べませんでした

そして、次の日

生徒M なんて、昨日来なかったの？

井上君 塾に行ってたんだ

生徒K じゃあ、今日は遊ぼうよ

井上君 でも、今日も塾なんだ

生徒M またあゝ？

…まあ、いいや

NA その後も遊べない日が続き友達との関係が悪くなっていきました。

そして、1週間後の朝

生徒M おはよう

井上君 おはよう

生徒K (井上君を無視)

生徒M・K いこ

(教室へ場面転換)

NA 今日は、テストを返してもらった日でした

先生 テストを返します

Mさん

生徒M はい！

先生 もうちょっと、がんばりましょう

次、Kさん

生徒K はい

先生 もうちょっと、がんばりましょう

次、Yさん

生徒Y はい

先生 もうちょっと、がんばりましょう

次、Sさん

生徒S はい

先生 もうちょっと、がんばりましょう

次、Iさん

井上君 はい

先生 100点です。おめでとう

生徒Y ええ、なんで？

やっぱり、あいつ勉強はつかやっていたんだ

(残りのいじめっ子はうなずく)

先生 起立、気を付け、礼

全員 ありがとうございます

NA 学校の帰り道

生徒S お前、100点なんですか？いらないなあ、いぢやみっほく

井上君 やっぱ、勉強しててよかったよ

生徒Y じゃあ、勉強ばかりしてればいいぢやん

井上君 ……(沈黙)

生徒M 早く、答えろ

井上君 こめん

生徒M ちょっと、思い知らせてやろうか(ゴゴゴ)

井上君以外 そうしよう(ゴゴゴ)

(いじめる、蹴る、井上君がこける)

井上君 やめてよ！

生徒S うっさい

生徒Y がり勉！

(家庭)

井上君 ただいま

母 おかえり

どうしたの？そのケガ？

井上君 どうして、塾に行かなきゃいけないの？

母 どうして、そんなこと聞くの？

井上君 いじめられたんだよ！付き合いたくない

どうして、いつも勉強ばかりしなきゃいけないの？

母 勉強が大事だからよ。(シヤリ)

井上君 勉強も大事だけど、みんなと遊ばせてよ！

母 勉強しなさい！

あなたのためを思って言ってるのよ！

井上君 もう、勉強ばかりなんてイヤだ！

井上君 確かに勉強も大事だけど、遊んでる時間もあるんじゃないの？

お母さんは、僕のことなんて全然分かってないんだ！

「家庭」

NA ある日の夕食こと

母 リカー、祐太。「ごはんですよー！

リカー・祐太 はあーい

全員 いただきます

(食べるフリをする。少し時間を空ける)

母 そうそう。「」の間のテスト、今日返ってきているはずよね？

どうだったの？

(弟はテンションが低いかんじで)

祐太 僕は85点だった…

(父、姉は無言で「飯を食べているフリ」)

母 85点だったの？

今回は90点以上じゃなかったけど、次回はがんばってね

父 そうだ！お前は勉強したら出来る子なんだから次回はがんばれ

祐太 うん！次は絶対に100点とるよ！

母 ところで、リカーはどうだったの？

(下を向いて、ドンヨリとした雰囲気をして)

リカー 35点だった…

でもね、今回のテストはすごく難しかったんだよ

父 でも、他の子はちゃんといいい点とってるんだろ！

35点なんて、勉強してない証拠や！

母 そうよ。あなたはお姉ちゃんなのに、いつもそんな点数とって。

お母さんは恥ずかしいわ。お母さんの立場も考えてよ。

リカー だって、行きたくもないピアノに毎日行かされて…

ピアノと勉強、両方するなんて無理やし！

母 リカーはいつもそんな言い訳ばかり言って！

あなたには、がっかりよ。

リカー だって…

(姉の心の中で気持ちを言うしはらぐ、暗い雰囲気)

祐太 お姉ちゃんだって、勉強がんばったら出来るよ

(姉はだまって、すぐに席を立ち、舞台裏へ)

全大会『人権フォー』シナリオ 大人実行委員会

<登場人物>

父親

母親

子ども

設定 パート1・・・子どもの話を聞かず、頭ごなしに怒る親（鬼ママと称します）

パート2・・・子どもを理解しているつもりの父、何でもいいなりに決めてします。
(真綿父と称します)

パート3・・・子どもの人権をしっかり認識し、子どもの話を対等の立場でしっかり聞いてくれる親

パート1

子ども 「私は小学校5年生の女の子です。幼稚園の時からピアノをならっていています。ピアノはすきなんですけど、最近友達と遊べないのでやめたいんです。お母さんに相談してみようかな？」(子ども家の外で一人をかたる)

子ども 「お母さん相談があるんやけど？」

母 「なに？はよ言うて」

子ども 「あんな～ピアノやめたいねん」

母 「ピアノやめたい？ またそんなこというて・・・あんたはお習字のときもそうやったやろ。いつでもそうや！！一つぐらい、ちゃんと続けられへんの、そんな根性なしやったらこれから何にも出きへんで～ 高いお金出して長いこと習ってきたのに」

子ども 「そやけど、やめたいねん！」

母 「なに言うてんの、かってことばったり言うて」

子ども 「ほっといてえな、わたしのかってやろ」

母 「かってにしなさい」

子ども 「かってにするわ！！」

*子ども 「もうお母さんなんか相談せえへんわ。いつでも怒るばかりで、私の話ちつとも聞いてくれへん。そうや、お父さんに相談しよ」(家の外で語る)

NO2

こども 「お父さん、話あるんやけどー。」
父 「なんや、育子」
こども 「あんな、ピアノやめたいんやんか。」
父 「そうかー。やめたいんやったらやめたらいいやんか」
こども 「もう、お父さんは一もうええわ！！」
父 「なに怒ってるねんなあ〜」
子ども 「もうええわ〜」(移動)
父 「やめたいいうたから、やめていいいうたのに、なにおこってるんたらろな〜
最近のこどもはわからんわ〜」

* 子ども 「お父さんは、いつでもちっとも私の話きかんと、分かった振りして勝手にな
んでもきめるんやから・・・もうお父さんもお母さんも大嫌い。相談なんか
せえへんわ」

* 「うちのお父さんやお母さんなんか子どもの権利なんて何にも考えてへんねんから
ここにきて子どもの人権について勉強してほしいわ」一人で語りパート3の家に入
っていく)

NO3

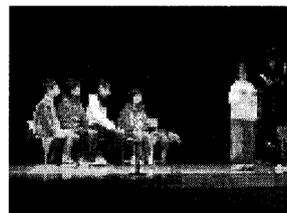
こども 「お父さん、話あるんやけどー。」
父 「なんや、育子」
こども 「あんな、ピアノやめたいんやんか。」
父 「長いことやってきたになどうしたんや」
子ども 「あんなピアノは嫌いちがうんやけど、練習ばかりで友達と遊べへんねん」
父 「そうか、友達あそびたいいやな」
子ども 「うん、小学生のときしかあそべんへんし・・・」
父 「そうやな、子どもにはちゃんと遊ぶ権利もあるもんな〜どうしたらいいかな？」
子ども 「ちょっと考えてみるわ」
父 「また、なんかあったら、いつでも相談してや〜」
子ども 「ありがとう！！話聞いてくれてありがとう」
父 「こっちこそ、いっこと話できて嬉しかったわ」

影アナウンス「みなさんは、今の劇をみられていかがでしたか？皆さん自身はいったいど
んな親なんでしょうね。またどうしたらパート3のような親になれるのか分から
ない方は明日の分科会でも、一緒に考えましょうね。」(このコメントは未定です)

感想

第1日目

- ・ (60代以上 女) 信頼される大人でありたいと思いつづけて来た。自分の活動を通して感じてきたことを行政や世間に知らしめる事をしていないと反省した。
- ・ (50代 女) もっと小さい子から人権意識をもたせる教育をしていきたい。
- ・ (40代 女) 子どもと大人が共に企画し、実行していて大変良かった。全国の動きや県の取り組みの状況が分かって参考になった。
- ・ (40代 女) 子どもたちの考え方や思いを十分に聞いてあげていなかったことを反省した。家に帰ったら寄り添ってあげたいと思う。
- ・ (40代 女) 子どもを持つ親としていろんなことを学びたいと思い参加した。
- ・ (40代 女) 子ども達がとても辛い思いをしていることにもっと気付いているべきだと思った。大人としてとても反省している。
- ・ (40代 女) 怒りも涙もいいですね。とまどいも、1つ1つの大切な意見としてかみしめたいと思いました。
- ・ (40代 女) 子どもが出てました。とてもよかったです。
- ・ (40代 女) 子どもたちも大人たちも多くの課題をいただいたようです。これからがスタート。私も関わっていきたいです。
- ・ (20代 女) 子どもの企画が多いのはとても良かった。構成が大人向けにしてあったのは残念。
- ・ (20代 女) 子どもたちの意識が高いということが伝わった。島小のシステムがもっと波及していくよう、大人たちがサポートしていくべき。
- ・ (10代 男) 白熱した意見がとびだし、楽しかった。
- ・ (10代 女) 劇は自分の気持と同じ所が多く、分かりやすかった。権利について考えることができ良かった。
- ・ (10代 男) 共感することがたくさんあった。子どもの権利のことがよく分かった。
- ・ (無記名) 中身は充実していたが、シンポジウムの参加者が少なかったのが残念。



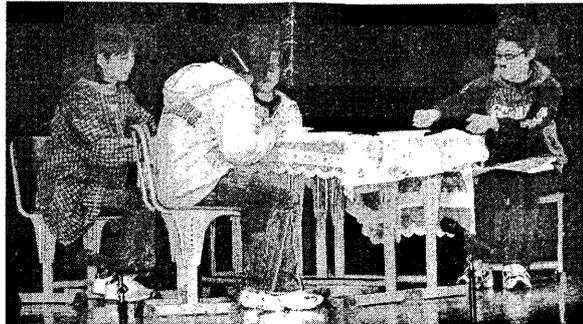
第2日目

- ・ (50代 女) 大人は子どもに何をすべきか分かった。私自身のもやもやも晴れた。
- ・ (40代 女) 子どもたちの活躍がたくさん見れてうれしくなった。おとながひっぱるのでなく、一緒に考えて感じてすすんでいきたいと思う。
- ・ (30代 女) 子どもも一緒に楽しめたのでよかった。
- ・ (20代 男) 紙芝居を見て…というのがすごく良いと思った。議題がつかみやすく参考になった。
- ・ (20代 女) いろいろな思いを聞くことができた。私も次につながるようがんばらなきゃと思った。
- ・ (20代 女) 「いろんな違いがあるんだ」とか人権の基礎が日本中で浸透していけば、いろんな苦しみ改善されていくのかな、と感じた。
- ・ (20代 男) 多文化主義をテーマにしたようなシンポジウムを継続していけるような環境がコミュニティの中に必要だと感じた。
- ・ (10代 男) 自分自身もすごく勉強になり良かった。熊本にも是非行ってみたい。
- ・ (20代 女) 子どもたちのエネルギーに驚き、無限の可能性を感じた。2日間でこちらまで元気をもらった気がする。子どもたちは今回のフォーラムに自信を持っていると思う。



子どもの思い寸劇に込め

近江八幡で権利条約フォーラム



寸劇で日ごろの思いを表現する子ども実行委のメンバー
(近江八幡市鷹飼町の県立男女共同参画センターで)

フォーラムの冒頭、代表は冒頭のあいさいで、広島、栃木で起きた児童殺害に触れ、「怖い事件。子どもの権利、人権が尊重されていないことを実感する」と神妙に語った。

その後、フォーラムの運営にかかわる高市立鷹小の児童らが、日ごろ、学校や家庭で感じている不満、悩みを寸劇で紹介。

「親が言うことを聞いてくれない」「弟がいるとすぐ『お姉ちゃんなんだから』と言われるけど、一人一人、個人として見てほしい」といったセリフを織り交ぜながら、条約にうたわれた人権の尊重などをコミカルな演技で訴え、観客を引き込んだ。

2005/12/04 読売新聞

子供の権利 全国へ

近江八幡がフォーラムに知人

子供の権利条約について、児童、児童に委嘱された講師の講演の後、子どもの権利条約交換する「子どもの権利条約フォーラム」が、今年で約10年になる。今年、約10年を記念して、近江八幡市鷹飼町の県立男女共同参画センターで、全国にネット共同参画センターが始まった。同日、近江八幡市のいしごうが、フォーラムに知人として参加した。

小学生から十九歳までで作る「子ども実行委員会」が、学校や家庭を舞台にした劇を上演。条約に基づいて、さまざまな権利を紹介したほか、条約は直訳されたばかりで、子供同士が守るべき権利についても訴えた。劇に出演した水上翔太さんは「子供にもいえる権利がある」と感動を伝えた。フォーラムは、百席の部屋で、四日には分科会が開かれ、意見交換を促す。

2005/12/04 産経新聞

子どもの権利大切にね

近江八幡で 小中高生ら劇披露

「子どもの権利条約フォーラム」が、同日、近江八幡市鷹飼町の県立男女共同参画センターで始まり、子どもの権利の大切さを訴える劇やパネル討論などが行われた。

同フォーラムは、国連が採択した子どもの権利条約を多くの人に知ってもらうことと、一九九三年から毎年、日本各地で開催されている。滋賀県では、初めての開催で、県内外の子ども、教員関係者約二百五十人が参加した。

まず、実行委員長の野田正人立命大教授が「条約」について、子どもに権利を認めよう、と訴えた。パネル討論では、小学校教諭や子ども十人が、子どもの権利について意見を話し合った。

四日は、遊びや学校内での小中高生ら約三十人が、学校や家庭を舞台にした劇を披露し、子どもの権利の大切さを訴える子ども実行委のメンバーが、学校や家庭を舞台にした劇を披露した。

2005/12/04 京都新聞

今回のフォーラムのことが新聞で紹介されたよ☆



☆子ども実行委員会の様子☆

■日程と内容■

9月17日 『趣旨説明&仲良くなろう』(レクリエーション・ワークショップ)

初めての会議。はじめて会う人もいてちょっと緊張気味・・・(^°;)

10月1日 『さて何をしようかな?』(ワークショップ)

やってみたいことをみんなで出し合って「劇」と「トーク」に決定(´▽`)

10月15日 『みんなの普段思ってること』(フォーラムのタイトル決め・シナリオづくり)

たくさんの人に来てもらえるようなタイトルを決めるのにはすごく時間がかかったけど、中身の濃い、想いのたくさん詰まったタイトルができました(*^~^*)シナリオは3幕構成に。

10月29日 『おとなの想いもきいてみよう』(意見交換/シナリオづくり・練習)

全体会の流れについて、大人の実行委員会の人と考えました。ちょっと難しかったけど、大人の想いもナマでできたよ☆そして、突然次回は「合宿」に決定(;+д=)

11月12日~13日 『合宿!!』(練習/準備等)

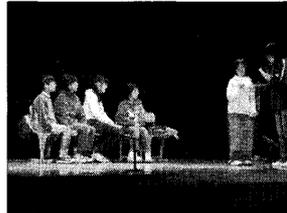
時間がないぞ!!練習だあ!!でも一番の収穫は仲間とのチームワークかな(*´▽`*)

11月26日 『本番にむけて』(最終練習/当日の準備等確認)

練習のビデオを自分たちで見直しながら最終調整をしたり、ひととおり本番の流れで練習したり。あとは本番を残すのみ!p(^-^)



12月3日・4日 (さあ本番だ!!)



■フォーラムを終えて■

フォーラムの終了後、子ども実行委員会のメンバーにアンケートをとりました♪

① あなたが実行委員になるまでの「子どもの権利条約」についてのイメージは？

- * 文が難しくて理解できなかった
- * 難しそうということだけで、あまりイメージがわかなかった
- * 実行委員になるまでは知らなかった(名前だけは知っていた)
- * 子どもの権利をあまり知らなかったので、本当に守られているのかもよくわからなかった
- * どこかのお偉いさんが決めた、僕たちには関係のない名前だけの条約かなと思っていた
- * 国際条約のイメージで身近には感じなかった。(「遊ぶ権利」にびっくりした)

② 準備の会議について「よかったこと」や「こうしたらよかったのに」などの感想。

- * 最初はみんながぜんぜんまとまっていなかったけど、少しずつまとまりました。最初からみんなまとまっていたらもっと良いのができたと思う。
- * みんなやるときはやるのでよかったけど、ふざけることも多くて意見がなかなかまとまらなかった(時間をうまく使えていればよかった。最後にバタバタして焦った。)
- * もうちょっと早めから準備したかった。そうすればもっと新しい企画ができたと思う(回数がもっとあったほうが良かった)
- * 子どもの権利条約を知る人が増えたのでよかった
- * 合宿はおもしろかったし、作業も進んでよかった
- * 企画から自分たちで決めていけたのがよかった
- * 大人の方がもう少しいてくれたらよかった

③ 実行委員会の中で、あなた自身は何か変わりましたか？

- * 今までは、意見が言えなくて他人に流されるタイプだったけれど、実行委員会に入ってから自分の意見をしっかり持って積極的に取り組んでいくことができた。人前に出ることが好きになった。あがり症が少しマシになった。
- * まともな文章が書けるようになったかな？ 真剣になれた！！
- * 子どもの権利を多く知ることができた
- * いろんなことが初めての体験だった
- * 子どもの権利条約をいろんな人に伝えていけたらいいなと思うようになった
- * 自分が大人になったときに、子どもの意見を尊重していこうと思った(大人の中にはまだまだ子どもに意見を押し付ける人がいると思うので、そういう人を減らしていきたいと思った)

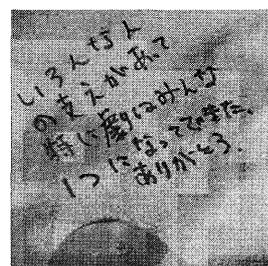
④ フォーラム当日の感想。

- * 緊張した
- * 自分たちが伝えたいことが伝わるか不安だったけど、これまでかんばって作り上げたものやお客さんに伝えたいことが伝わったと思う。劇を見た人はなにか考えてくれてかなあ？
- * ちょっとハチャメチャだったのが『滋賀県』ぽくてよかった
- * 成功してよかった。達成感があつてよかった。疲れたけど、そのぶん喜びも大きかった

- * 協力しあって心がひとつになったことが一番印象的。みんなが一生懸命になれてよかった
- * 島小学校の発表もすらすらと言えてよかった(二日目の分科会)
- * 何をするのにもとことんやるという気持ちが強くなった
- * 劇が成功したのは良かったけれど、そのためだけに僕たちの活動があったのだとは思わず、あくまでも子どもの権利条約を広めるためのワンステップだと考えて、これから活動などに活かしていければ良いと思う
- * めぐ氏が泣いてくれてうれしかった(笑)
- * シンポジウムは大変だった

⑤ 実行委員会が終わって・・・。

- * 実行委員会はすごく楽しくていっぱい学べることがあったので、参加してよかった。自分のためになった
- * もう一回劇をやってみたい。またこのメンバーで何かやりたいと思う
- * 正直ホッとしたけど、終わってしまうのはとても寂しい
- * 「もう終わりか」というくらい早く感じた
- * 今のメンバーだけじゃなくて、まだ知り合っていない子どもたちも集まって何かできたらもっと思いと思う
- * 最初はメンバーとも緊張してあまり話せなかったけど、一緒にいるうちに意見を言ったり仲良くなれてよかった。はじめは不安だったけどみんな優しくしてくれて、仲良くなれてよかった
- * フォーラムが終わったことがすべてじゃなくて、まだ子どもの権利条約が広まっていないので、広めていきたいと思う
- * とてもいい思い出になった
- * 子ども実行委員はもちろん、周りの大人の方も人たちも支えてくれたり、ひとりひとりが頑張ったから無事成功したんだと思う
- * 協力できるメンバー最高！！
- * たくさんの人と出会えてよかった
- * おつかれさま！！ありがとう！！



・・・2006年度開催地 熊本の実行委員会より・・・

「子どもの権利条約フォーラム2005inしが」実行委員会の皆様、フォーラムの成功おめでとうございます。そして大変お疲れ様でした。

私たちはほんの一部しか存じ上げませんが、時間をかけて検討され、充実したフォーラムだったと伺っています。

テレビからは子どもたちが何らかの暴力を受けたり、目を背けなくなったりするニュースが毎日のように流れています。一方ではパトロール隊などを地域の方たちの協力で行っており、子どもたちを囲むおとなの意識は徐々に変わってきているようにも感じられます。

当法人でもCAPプログラムの提供を軸にさまざまな活動や取り組みを行っておりますが、悲しいニュースを耳にするたびに一部の人の努力だけにどどまらない、何か大きな意識の変革が必要とされているように思います。

2006年は熊本の地で「子どもの権利条約フォーラム」を開催することとなり、これから当法人が呼びかけていろいろな団体と手をつなぎ実行委員会を形成するところです。少しでも子どもたちを取り巻く環境が良い方向に行くように力が尽くせたらと思っています。

これから子どもたちを真ん中においてたくさん話し合いを重ね、コミュニケーションを取ることが必要になってきます。ぜひ皆様のご助言とご支援をお願いいたします。

NPO 法人 くまもと子どもの人権テーブル 久米田 薫

なお、熊本での開催日は、2006年11月11、12日熊本学園大学にてです。

・・・詳しくは、全国事務局子どもの権利条約ネットワーク <http://www6.ocn.ne.jp/~ncrc/> をご覧のうえ、お問い合わせ下さい。



実行委員会のあゆみ

2004年秋	淡海ネットワークセンター	喜多明人氏より滋賀での開催呼びかけを受ける
2005年 4月17日	プレ実行委員会 九冊法律事務所	呼びかけ以後の経過・フォーラムの目的・開催の意思確認 開催日時・会場決定・第1回実行委員会までに委員の呼びかけ
5月23日	第1回 草津市市民活動交流プラザ	実行委員会参加呼びかけ状況確認 当日までの日程と役割分担
6月21日	第2回 野洲中央公民館	学習交流「子どもの権利に関する実態・意識調査」 「じんけんフェスタしが2005」企画提案・応募について 自己紹介を兼ね各自が行っている活動紹介と子どもの権利について考えていること
7月7日	事務局会議 草津法律事務所	第3回実行委員会内容について 共催・後援・協力団体・協賛呼びかけ先について

7月22日	第3回 守山市コミュニティホール	実行委員会役割分担確認 学習会「来て・見て・ガッテン～知ったらおもしろい『子祖者権利条約』」講師：野田正人氏 「じんけんフェスタしが2005」参加内容 全体の企画構想
8月3日	事務局会議 草津法律事務所	「じんけんフェスタしが2005」参加企画と役割分担
8月15日	事務局会議 草津法律事務所	「じんけんフェスタしが2005」参加企画について 全体企画内容について 共催・後援・協賛のお願い文書作成
8月30日	第4回 Gネットしが	「じんけんフェスタしが2005」参加企画・当日タイムスケジュール等 予算・フォーラム全体企画と日程
8月31日	事務局会議 草津法律事務所	「じんけんフェスタしが2005」内容 分科会企画内容・後援・協力団体・協賛呼びかけ
9月10日	プレフォーラム「ここが変だよ子どもの権利」—じんけんフェスタしが2005— 滋賀県立水口文化芸術会館	
10月3日	第5回 守山市市民活動交流センター	全体企画内容(全体会・分科会・エンディング)・宣伝計画 当日までの日程
10月13日	事務局会議 草津法律事務所	賛同・協賛の呼びかけ状況 当日参加費・申し込み受付・宣伝計画
11月1日	第6回 守山市市民活動交流センター	サブタイトルの確認・企画内容進捗状況と時間配分・宣伝
11月18日	第7回 Gネットしが	当日代務スケジュールと役割分担・参加申し込み状況 協賛・賛同金状況
11月29日	事務局会議 草津法律事務所	当日タイムスケジュール・準備物確認・役割分担
12月3・4日	当 日	
12月14日	事務局会議 草津法律事務所	事後処理実務と分担
2006年 1月13日	最終実行委員会 草津法律事務所	収支報告・事後処理と分担

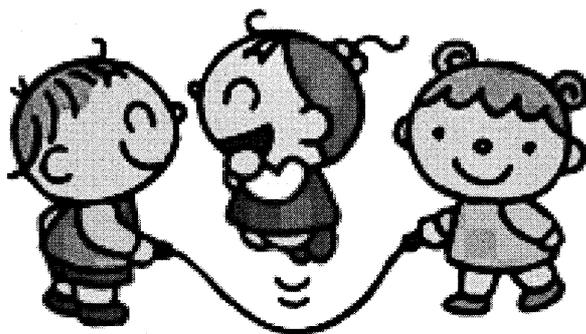
私達ちも応援しています



子どもの権利条約ネットワーク
 滋賀県労働者福祉協議会
 子どもの権利条約ネットワーク
 滋賀県職員組合
 有限会社 エーワイ
 滋賀県映画センター
 平柿法律事務所
 小林事務機株式会社
 滋賀ありがとうの会
 社会福祉法人穴太福祉会風の子保育園
 子どもの権利条例東京市民フォーラム
 めぐろチャイルドライン
 学校災害から子どもを守る全国連絡会
 滋賀県保育協議会
 ふちもと助産院（淵元純子）
 近江八幡市仏教婦人会
 株式会社ヤマプラ
 富山アドラー心理学研究会
 株式会社尾賀亀
 近江八幡市商工会議所
 滋賀TCM株式会社
 株式会社ロッテ滋賀工場
 （社）子ども情報研究センター 田中文字子
 高知アドラー心理学研究会 尾中孝司
 草土文化・子どものしあわせ 岩堀瑞子
 滋賀“人間と性”教育研究協議会
 東京シューレ
 NPO法人アユス仏教国際協力ネットワーク
 山口育子 NPOチッチ
 かわにし子どもネット事務局

荒川 葉子	山元 久子
小林 弘和	小林亜希子
喜多 明人	中川 幸雄
森田 重樹	竹下 育男
小川 和寧	新井はるみ
井原 文子	石田 文三
横井 真	荒木 雅子
荒木 雅子	宮本 弘子
宮本 弘子	中邨 深夜
川口 聰	本郷 仁視
松田 成江	福永 恭子
松永 茅光	高橋さと子
清野 雅子	望月 和子
畑中 景子	片山ひろこ
荒牧 重人	海老沢文代
宮本 晴佳	上杉 孝實
藤井 浩子	高柳 滋美
川井 浩子	吉永 省三
時川 典子	岡田 敬子
太田 理恵	久保田由紀子
澤田 裕子	背戸 公子
田中 晴美	白石 一浩
橋本 久代	橋野美穂子
鈴木 好江	田家 文衛
阿部 道子	熊澤今日子
山田登志子	大塚 裕子
井上ゆかり	中村 勝彦
澳津 麻里	西畑 伸子
東 純子	北 千加枝

（ボランスキー・真弓 奥田 清子 尾瀬しのぶ 植田友香理 木下智恵子）



発行2006年3月

子どもの権利条約フォーラム2005 inしが実行委員会